

## 8月8日（水） お馬さんがひっくりかえる

足の部分をくり抜くため、今日はお馬さんがひっくりかえた状態になっています。クラインダーや削岩機を用いてどんどん作業が進んでいきますが、台風による影響か、風も強まってきました。そしてとうとう明日は雨の予報が出てしまいました。

札幌軟石は、火砕流の噴出物が固まった石であるため、濡れた状態での切削作業は困難とのこと。しばらく雨が降らず大変な思いをされている方も多いであろう訓子府町では勝手なこととも言えませんが、順調に作業が捗るような環境を用意できればいいのですけれど・・・。



【札幌軟石とは】ウィキペディアより

札幌軟石（さっぽろなんせき）とは、札幌市南区で産出する凝灰岩の石材。単に軟石と呼ぶこともある。明治時代から昭和初期にかけて札幌市、小樽市周辺の建物の建設資材として用いられた。

4万年前に支笏カルデラ（支笏湖を形成した火山活動）で大規模な火砕流が発生し、現在の札幌市南区にまで達した。キメが細かく適度な硬度を有していることや切り出しが容易で保温性が高いことから開拓時代の主要建造物の資材として広く使われた。

昭和30年代以降は、コンクリートブロックなどの普及により利用が激減し、現在のところ切り出しを行っている業者は1社のみとなり、貴重な石材となってきている。